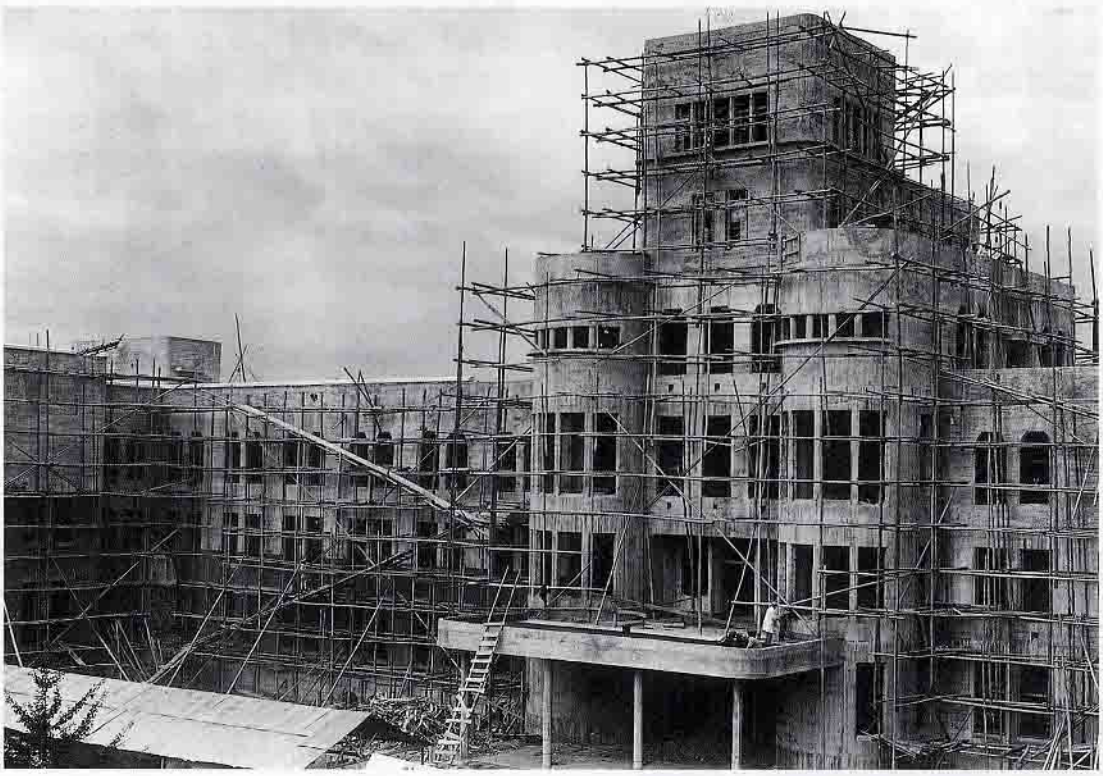
ISSN 0919-4339

九州大学
大学史料室ニュース

第18号　2001. 9. 30.

目　次

行政文書の管理と大学文書館……2
イェーナ大学アルヒーフについて……3
九州大学大学史料室名簿……5
受贈図書一覧……6
大学史料室日誌抄録……7



工学部本館建築写真（1930年）

九州大学工学部の最初の本館は1914年（大正３）３月に竣工したが、1923年（大正12）12月の火災により焼失した。現在の本館はその跡地に建設されたもので、1928年（昭和３）11月に起工し２年後の1930年11月に竣工している。鉄筋コンクリート３階建一部地階、塔屋、建坪922坪、延坪3,315坪。設計は建築課長の倉田謙が行った(倉田については福田晴虔「倉田謙と九大キャンパス」『大学史料室ニュース』16号参照)。特徴ある外観が既に出来上がっているので、1930年（昭和５）の初夏頃のものであろう。本学を代表する建物である工学部本館の建築中の珍しい写真である。

行政文書の管理と大学文書館

西山　伸

2000（平成12）年11月１日、京都大学に「京都大学の歴史に係る各種の資料の収集、整理、保存、閲覧及び調査研究を行う」ことを目的とする大学文書館（だいがくぶんしょかん）が設置された。本格的な「アーカイヴズ」としては、事実上日本の大学で最初といってもよいものである。大学文書館の設置の経緯等については、筆者はすでにいくつかの文章を書いている（「京都大学大学文書館の設置」（『名古屋大学史資料室ニュース』第10号、2001年）、「京都大学大学文書館の設立と今後の課題」（『大学アーカイヴズ』第25号、2001年））ので詳細はそちらに譲り、ここでは大学の行政文書の管理と京大の大学文書館との関係に焦点を当てて話を進めたい。

行政文書の重要性

そもそも行政文書の定義とは何かといえば、2001年４月に施行された行政機関の保有する情報の公開に関する法律（情報公開法）によると「行政機関の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）であって、当該行政機関の職員が組織的に用いるものとして、当該行政機関が保有しているものをいう」（第２条２）とされている。京大の学内規則における行政文書の定義も、この条文を踏襲している。

大学を管理・運営する立場や、何らかの形で大学に情報公開を求める立場から見たときの行政文書の保存の重要性については、改めて強調するまでもないことであろうが、大学の歴史を考える上での行政文書の重要性について『京都大学百年史』編集の経験も踏まえて、一、二の実例を挙げておきたい。

京都大学事務局に保存されている行政文書

京大のみならず多くの大学の沿革史において、叙述に苦労するもののひとつが戦争と大学という問題であろう。例えば、学徒動員の実態や、学徒出陣者数、さらには戦没者数といった、戦争と大学との関係を見る際に最も基本的ともいえるような事項についての記述が、曖昧なものになっているケースが特に国立大学の沿革史によく見られる。その理由は、史料が存在しないということにつきるが、上記のような事項についての行政文書はもともと大学で作成されなかったと考えるよりも、敗戦直後の混乱のなかで処分されたと考えるほうが自然であろう。ちなみに1998年には東京大学史史料室が『東京大学の学徒動員学徒出陣』という大部な研究報告書を編集したが、典拠となっているのは行政文書よりも大学新聞や元総長の個人史料、旧制高校同窓会や戦友会から提供されたデータなどが中心であって、報告書作成に費やした膨大な労力が察しられる。敗戦直後のような状況は極端なものと言えないこともないが、他の時期においても、当然あると思われる行政文書が見つからないために、叙述を諦めざるを得なかった事項が京大の百年史でもいくつもあった。このようなとき更に厄介なのは、いつ、何を処分したのかということさえ、分からないということであり、すでに存在していないファイルを血眼になって探すという「無駄な」手間を強いられる羽目になってしまう場合も、ままあると考えられるのである。

逆に、京大では、1950年代くらいの学生運動に関係する諸事件については大学側の報告書が残されており、当時どのようにそれぞれの事件をとらえていたか、どう対応したか、といったようなことを比較的明らかにすることができた（『京都大学百年史』資料編２に収録した）。また、一見無味乾燥な記述の連続である評議会などの議事録のたぐいも、その時々の大学で何が問題になっていたのか（あるいはいなかったのか）ということを見るには最も基本的な素材となるのである。

このように、行政文書の残存状況によって、歴史叙述の正確性が大きく左右されてしまう。それ

は、情報公開法の定義にならえば、大学が「職務上」そして「組織的に」、ある物事にどう対応したのか最もよく表すのが行政文書だからである。大学の歴史を、特に制度・組織の変遷という面から見ようとするときには、行政文書は不可欠の史料といえるのである。

京都大学における行政文書の管理と大学文書館の役割

京都大学では、大学文書館設置に先立つ1998年から、事務局総務部総務課の手によって、全学の行政文書の実態把握が行われた。従来、京都大学には文書管理規程がなく、行政文書の整理、保存あるいは廃棄などは各部署に任されていたというのが実状であった。そこで、総務課では事務局および各部局保有のファイルに関して、文書分類・ファイル名・作成者・作成時期・保存期間等を記入した文書管理台帳の作成を開始し、1年かけて総計11万点分の台帳を完成させた。当然この台帳は今後繰り返し更新されていくものであり、ここにおいて京都大学では行政文書の統一的な管理が実現したことになる。そして、これらの行政文書のうち、定められた保存期間（最長30年）内のものは各部署が管理し、保存期間の満了した分に関しては大学文書館に移管されることが決定したのである。注意しておきたいのは、「京都大学における行政文書の管理に関する規程」では「保存期間（延長された場合にあっては、延長後の保存期間とする）が満了した行政文書は、京都大学大学文書館へ移管するものとする」と移管が義務規定となっていることである。つまり、非現用の行政文書については、大学文書館が一元的に管理するのであり、それは同時に行政文書を選別・廃棄する権限と責任も大学文書館が持つということを意味するといえる。

冒頭で述べた大学文書館の目的規定にある「京都大学の歴史に係る各種の資料」のなかで、行政文書が非常に重要な柱となっているのは間違いがない。もとより、行政文書以外の個人史料等を軽視するつもりは毛頭ないが、大学の歴史を研究する際の行政文書の重要性は前述したとおりであり、また小池聖一氏が本ニュースの前号で述べておられるような（「独立行政法人下の大学公文書館」『九州大学大学史料室ニュース』第17号）シンクタンク的役割を果たすことも大学文書館に期待されるのであればなおさらのことである。

周知のように、自治体に置かれているいわゆる「公文書館」には様々な名称がつけられている。同じ「文書館」と書いても「ぶんしょかん」と読むこともあれば「もんじょかん」と読む場合もある。そんななか、京都大学で敢えて「大学文書館」と命名したのは、行政文書を中心とした大学に関する各種の資料を扱う機関として特化する必要があると考えたからに他ならない。大学における研究・教育および管理運営に寄与し、自己および第三者からの継続的な点検・評価に応じられる開かれた場となり、さらに近現代史の研究にも貢献するという大学文書館の役割からして、このような形が最もふさわしいと思われる。現在、国公私立を問わず、大学の存在意義が問われはじめており、この傾向は強まりこそすれ収まることはあるまい。すなわち、高等教育を担う公的な機関としての大学には、創立以来今日まで、そして将来に至るまで、その足跡を記録し、広く社会にその存在の意義を説明する責務があるということである。大学文書館は、これからの大学に不可欠の機関となるのではなかろうか。

（京都大学大学文書館助教授）

イェーナ大学アルヒーフについて

熊　野　直　樹

はじめに

筆者は今年の4月から5月にかけてドイツ中部テューリンゲン州にあるイェーナ大学の大学文書館（Universitätsarchiv Jena　以下イェーナ大学アルヒーフと記す）を訪れた。そこにおいて、大学アルヒーフ所長（Archivleiter）であるヨアヒム・バウアー博士（Dr.Joachim Bauer）にイェーナ大学アルヒーフの建物内をいろいろと案内して頂くとともに、その活動内容について詳細に説明して頂く機会を得た。以下では、そこで得た情報や知

見に基づいて、イェーナ大学アルヒーフについて紹介することにしたい。

1. イェーナ大学アルヒーフの歴史

イェーナ大学はルターの宗教改革後の16世紀半ばに創設された、ドイツでも伝統のある大学の一つである。わが国ではとりわけシラーやヘーゲルが教壇に立っていたことで有名である。

その一方で、イェーナ大学アルヒーフの歴史は大学の歴史と比べると、かなり新しい。大学アルヒーフは、1947年に「大学で生じたすべての文書を一つの中心的な場所に集めるために」設立された。それ以前は、大学文書は本部や各部局ごとにそれぞれ別個に保管されており、大学アルヒーフといった大学文書を一手に収蔵・管理する施設は存在しなかった。大学アルヒーフ創設のそもそものきっかけは、第二次世界大戦時の空襲による被害から貴重な大学文書を守るために、史料の大部分が大学の地下倉庫に集められたことによる。結局、多くの貴重な大学文書は空襲によって消失してしまったが、戦後、地下倉庫に残った大学文書が整理される過程で、これらの史料を含む大学文書すべてを統一的に管理する施設として大学アルヒーフが創設されたのであった。以後、大学で生じた文書はすべて大学アルヒーフに集められて、そこで管理がなされている。このように大学アルヒーフが創設される際の一つの基本的なコンセプトとなったのが、「大学で生じたすべての文書を一つの中心的な場所に集める」という点であり、この考えは、我々にとっても大いに参考になろう。

2. イェーナ大学アルヒーフの現状

(1) 保存史料

現在、大学アルヒーフにはメートル換算で3000㍍相当の文書（1548年から今日に至る）が保存されている。これらの史料は、部局別に分類・整理されている。バウアー博士によると、大学史料の分類方法は、大学職員録でなされている分類方法と基本的に同じである。確かにイェーナ大学アルヒーフの史料の分類方法は、基本的にイェーナ大学の職員録のそれと同じであった。

具体的に保存されている史料の分類について記せば、以下のようになる。

- 中央機関（例えば、学長や評議会史料など）
- 学部（神学部、法学部、医学部、哲学部、数学・自然科学部、教育学部など）
- 精神・文化並びに社会科学研究所（教育研究所、スラブ研究所、歴史研究所など）
- 数学・自然科学研究所（数学研究所、心理学研究所、歯科診療所・研究所など）
- 農業研究所（農業機械研究所、農業政策・農業史研究所、農業研究所など）
- 団体並びに社会組織（大学友の会、ナチス講師同盟、学生評議会など）
- 個人文書（教授や大学関係者）
- その他のコレクション（新聞切り抜き、写真など）

さて次に、保存されている大学文書の内容についてであるが、実に多彩なものが所蔵されている。例えば、通達を初めとした各種行政文書、評議会・教授会議事録から教授の講義ノートや書簡類、学生の成績表や試験、さらにはビラやチラシに至るまで、まさに「大学で生じたすべての文書」が納められている。しかも大学アルヒーフでは、患者リストや手術記録を初めとした大学病院の文書まで収蔵されている。バウアー博士によると、テュービンゲン大学に至っては患者のカルテまでが大学アルヒーフに保存されているという。

現在イェーナ大学アルヒーフでは貴重な大学史料についてはデジタル化が進められており、すでにコンピューターの画面によって幾つかの史料の閲覧が可能な状態にある。

(2) 公表物

イェーナ大学アルヒーフでは、利用時間や利用上の注意、保存史料の概要を記したパンフレットが無料で配布されている。どの時期のどのような史料が所蔵されているかをこのパンフレットで簡単に把握できるが、ホームページ（参考文献欄参照）ではより詳細に保存史料の内容が紹介されている。そこでは、利用する際に必要なあらゆる情報が掲載されており、きわめて便利である。また、メールによる問い合わせも可能である。

(3) スタッフ

現在、所長１名のほかに、研究員並びに実務担当者合わせて３名が働いている。さらに史料のデジタル化に際しては、バウアー博士によると、自身のゼミの学生をアルバイトとして雇っているとのことであった。

(4) スペース

大学アルヒーフは、現在、大学本部のある建物の１階に位置している。閲覧室は１つで、約10名が利用可能である。また、そこにはリーダープリ

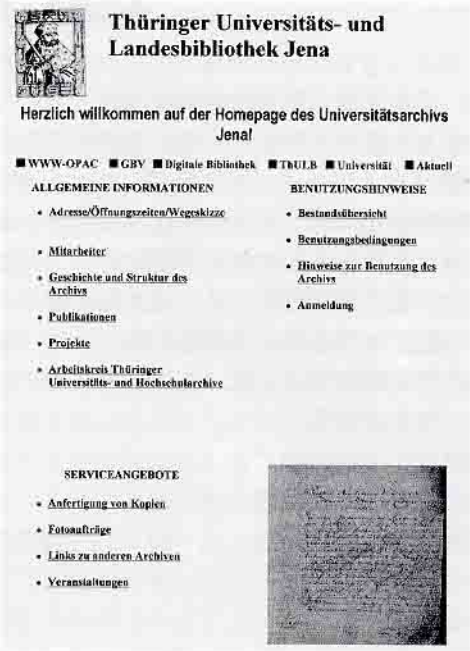
ンターが設置されている。さらにスタッフ用の部屋が２つ併設されている。史料請求の際に必要な史料カタログやカードは、所長の部屋に保管されてある。利用者は、閲覧室でその史料カタログやカードを調べて、該当する史料の請求番号を、所定の用紙に書いて提出することになる。

現在も地下倉庫は、史料の収蔵庫として利用されている。なかはワインケラーのような雰囲気で縦に細長く、そこにはハンドル付きの移動式書架が設置されている。各保存史料は請求番号順にそれぞれケースファイルに整然と収納されている。既に収蔵庫は史料で満杯に近い状態になっていた。

このように、イェーナ大学アルヒーフの問題は、史料を収蔵するスペースが既に限界に達していることである。このことは既に数年前から切実な問題として指摘されていた。そのため、イェーナ大学は最新の設備を備えた建物を現在建設中である。2002年初頭には完成する予定である。移転予定の建物には、約20名が利用可能な閲覧室が準備されている。しかも、すべての席にＰＣの端末が付いており、デジタル化した史料がそこで閲覧できるようになっている。さらに、４つのブース付きの閲覧室が併設されるという。コピー機とリーダープリンターも閲覧室に設置が予定されている。

また、スタッフ用の部屋が３つ用意されており、問題となる史料の収蔵庫には300平方㍍ほどのスペースが予定されている。しかも、収蔵庫には史料の修復ならびにデジタル化のための作業室も設置されるという。その収蔵庫には、ハンドル付きの移動式書架が置かれる予定である。イェーナ大学では、一年で約100㍍相当の文書が増えるために、さらに幾つかの補助的な所蔵庫が準備されるそうである。

十分なスペースをいかに確保するかは、わが国の大学アルヒーフにとっても主要な課題となるだろう。



イェーナ大学アルヒーフ･ホームページ

おわりに

以上が、イェーナ大学アルヒーフの大まかな紹介である。なお、所長のバウアー博士には、この間にも大学アルヒーフに関する筆者の様々な問い合わせに対し、貴重なアドバイスをお寄せ頂いている。九州大学大学史料室のより一層の発展のために喜んで協力する、というバウアー博士の心強いメッセージを最後にお伝えして筆をおくことにする。

（大学院法学研究院助教授／大学史料室兼任教官）

参考文献

L.Arnold: 50 Jahre Universitätsarchiv Jena, in:*Archive in Thüringen*, 12/1997, S.11-15.
Thüringer Universitäts-und Landesbibliothek Jena. Universitätsarchiv, Jena 1993.
http://thulb03.biblio.uni-jena.de/uaj/（イェーナ大学アルヒーフ・ホームページ）

PS: An dieser Stelle danke ich Herrn Dr.Bauer für seine unermüdliche Hilfe.

九州大学大学史料室名簿

室　長	人環院	教授	新谷　恭明
専　任		助教授	折田　悦郎
兼　任	人文院	助教授	佐伯　弘次
〃	比文院	教授	有馬　學
〃	法　院	教授	植田　信廣
〃	法　院	助教授	熊野　直樹
兼　任	経　院	教授	荻野　喜弘
〃	石炭研	教授	東定　宣昌
事務補佐員			馬場　恵
〃			筑紫　啓子

（2001年７月31日現在）

受贈図書一覧（2001年１月～2001年７月）

猪俣　孟教授退官記念研究業績目録
　九州大学眼科学教室・九州大学眼科学教室同門会編　2001. 3
教育哲学研究報告　岡本英明教授還暦記念論文集
　九州大学教育学部教育哲学研究室　1998. 3
九州大学堀内忠郎教授　退官記念業績集
　堀内忠郎教授退官記念事業会編　1993. 1
有地教授還暦祝賀論文集　法政研究　第五五巻第二～四号合併号
　九州大学法政学会
現代家族法の諸問題
　有地亨編　1990. 3
家族法概論
　有地亨　1990. 5
松の実　第35号
　九州大学女子卒業生の会　2000. 11
北海道大学125年史編集室だより　第４号
　北海道大学125年史編集室編　2001. 3
北大の125年
　北海道大学125年史編集室編　2001. 3
東北大学百年史編纂室ニュース　第７号
　東北大学百年史編纂室編　2001. 3
金沢大学資料館だより　第17号
　金沢大学資料館　2001. 3
金沢大学資料館紀要　第２号
　金沢大学資料館編　2001. 3
東京大学史史料室ニュース　第25号
　東京大学史史料室編　2000. 11
大阪大学水泳部五十年史
　大阪大学水泳部創立五十周年記念事業委員会　1973. 8
京都大学百年史　資料編二
　京都大学百年史編集委員会編　2000. 10
広島大学を語る　原田康夫学長退官記念誌
　広島大学五十年史編集室編　2001. 5
広島大学史紀要　第三号
　広島大学五十年史編集室編　2001. 3
大学論集　第31集
　広島大学高等教育研究開発センター編　2001. 3
高等教育研究叢書66　大学および短期大学における情報教育の研究―情報リテラシー教育を展開して―
　広島大学高等教育研究開発センター編　2001. 3
コリーグ　No. 31
　広島大学高等教育研究開発センター編　2001. 3
大阪市立大学　大学史資料室蔵　末川博関係資料目録
　大阪市立大学　大学史資料室編　2001. 3
宮城学院資料室年報『信・望・愛』2000年度　第７号
　宮城学院資料室運営委員会　2001. 3
校史　Vol. 12
　國學院大學校史資料課　2001. 3
実践女子学園一〇〇年史
　実践女子学園一〇〇年史編纂委員会編　2001. 3
拓殖大学百年史研究　六号
　拓殖大学日本文化研究所附属近現代研究センター編　2001. 1
拓殖大学創立一〇〇年記念出版　宮原民平―拓大風支那学の開祖
　拓殖大学創立百年史編纂室編　2001. 2
拓殖大学創立一〇〇年記念出版　新渡戸稲造―国際開発とその教育の先駆者
　拓殖大学創立百年史編纂室編　2001. 3
拓殖大学創立一〇〇年記念出版　後藤新平―背骨のある国際人
　拓殖大学創立百年史編纂室編　2001. 4
拓殖大学百年史研究　７号
　拓殖大学日本文化研究所附属近現代研究センター編　2001. 6
サティア《あるがまま》　第41号～第42号
　東洋大学井上円了記念学術センター編　2001. 1、2001. 4
大学と哲学―マールブルク大学における哲学史―
　東洋大学井上円了記念学術センター大学史部会訳　1997. 3
法政大学史資料集　第二十四集　法政大学と戦後五〇年　資料篇四
　法政大学戦後五〇年史編纂委員会・法政大学大学史資料委員会編　2001. 3
武蔵野美術大学大学史史料集　第二集　教務手帳教務委員会及教授会会議録　助手会日誌
　大学史史料委員会編　2001. 3
大学史紀要　紫紺の歴程　第五号
　明治大学大学史料委員会編　2001. 3
歴史編纂事務室報告　第二十二集　明治大学と学

生
明治大学歴史編纂事務室　2001. 3
早稲田大学史記要　第三十三巻
早稲田大学大学史資料センター　2001. 7
神奈川大学史資料集　第十七集　神奈川大学会議録（二）
大学資料編纂室編　2001. 3
日本女子大学学園史ニュース　第４号
日本女子大学成瀬記念館編　2001. 2
成瀬記念館　2000　No. 16
日本女子大学成瀬記念館編　2000. 12
関西学院史紀要　第七号
関西学院学院史編纂室編　2001. 3
新島研究　第92号
同志社社史資料室第一部門研究編　2001. 2
同志社談叢　第21号
同志社大学人文科学研究所同志社社史資料室編　2001. 3
第19回 Neesima Room 展示「同志社の肖像画」
同志社大学人文科学研究所同志社社史資料室編　2001. 6
立命館百年史紀要　第九号
立命館百年史編纂室編　2001. 3
人文論集　第36巻第２・３号
神戸商科大学学術研究会・神戸商科大学経済研究所　2001. 3
福岡県地域史研究　第一九号
西日本文化協会　福岡県地域史研究所編　2001. 3
県史だより　第一一三号～第一一四号
福岡県地域史研究所編　2001. 1、2001. 3
福岡県史　近世史料編　細川小倉藩（三）
西日本文化協会　2001. 3
菊葉　旧制佐賀高等学校　創立八十周年　特集号　第三十九号
八十周年特集号編集委員会編　2000. 12
新しい知の世紀を生きる教育
野村新・二見剛史編　2001. 4
記念館だより　第23号
旧制高等学校記念館　2001. 3
大学アーカイヴズ　No. 24
全国大学史資料協議会東日本部会　2001. 3
東京女子医科大学百年史
東京女子医科大学百年史編纂委員会編　2000. 12
東京女子医科大学百年史　資料編
東京女子医科大学百年史編纂委員会編　2000. 12

〔凡 例〕
掲載したのは受贈図書の一部である。

大学史料室日誌抄録（2001年１月～2001年７月）

1.11（木）　第24回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。
平成13年度教官定員運用要望書提出。
1.18（木）　第27回大学史料室運営委員会開催。
教官定員運用委員会説明聞取（新谷委員長出席）。
1.22（月）　第25回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。
1.26（金）　柴田隆行東洋大学社会学部教授、史料調査のため来室。
1.29（月）　森茂暁福岡大学人文学部教授、大学史料室視察のため来室。
2.2（金）　退官予定教官へ史料寄贈依頼文書発送。
2.6（火）　飯田繁農学研究院教授、史料調査のため来室。
2.9（金）　岡本英明人間環境学研究院教授より史料寄贈。
2.26（月）　藤原祐三工学研究院教授より史料寄贈。
3.12（月）　稲津孝彦理学研究院教授、史料寄贈のため来室。
3.14（水）　法学部庶務掛より史料受領。
3.19（月）　糸魚川忠平氏（岐阜県中津川市鉱物博物館）、史料調査のため来室。
3.22（木）　新谷教授・折田講師、大学アーカイヴス研究会に参加、「大学アーカイヴスと情報公開法―九州大学の場合―」発表（於京都大学大学文書館）。
企画広報室より史料受領。
森祐行工学研究院教授より史料寄贈。
3.23（金）　教官定員運用委員会開催（大学史料室助教授が認められる）。
3.27（火）　理学部等事務部、教育学部庶務掛より所蔵文書移管。
総務課秘書掛より史料受領。

3.28（水） 進藤修一大阪外国語大学専任講師、大学史料室視察のため来室。

3.30（金） 羽田貴史広島大学高等教育研究開発センター教授、神谷智名古屋大学史資料室助手、大学史料室視察のため来室。

大学史料室、いわゆる「歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料」（行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令）を保管する機関として、総務大臣より指定を受ける。

平成14年度概算要求書（大学文書館）提出。

3.31（土） 『大学史料叢書』第９輯、『大学史料室ニュース』第17号、『低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究』刊行。

4.5（木） 統合移転推進室より九州大学スクールカラーの件につき照会。

4.9（月） システム情報科学研究院より看板受領。

4.12（木） 第26回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。

4.13（金） 折田講師、2001年度前期全学共通教育科目「九州大学の歴史」開講。

4.16（月） ＮＨＫ福岡放送局より史料調査のため来室。

4.19（木） 第14回九州大学史料収集・保存に関する委員会専門委員会開催。

平成13年度大学史料室振替要求書提出。

法学部庶務掛より史料受領。

4.27（金） 平成14年度概算要求（大学文書館）説明聴取（新谷委員長出席）。

5.1（火） 兼任教官発令（～2003.4.30）。
荻野喜弘経済学研究院教授

5.8（火） 姜明淑ソウル大学校大学記録管理室企画委員、大学史料室視察のため来室。

5.10（木） 第15回九州大学史料収集・保存に関する委員会専門委員会開催。

5.15（火） 予算経理委員会説明聞取（新谷委員長出席）。

5.17（木） 農学研究院より大工原銀太郎第３代総長デスマスク受領。

5.21（月） 高橋照男岡山大学名誉教授、史料調査のため来室。

5.24（木） 第27回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。

5.28（月） 猪俣孟名誉教授より史料寄贈。

5.29（火） 教官定員運用委員会説明聞取（新谷委員長出席）。

二見剛史志学館大学教授、史料寄贈のため来室。

6.8（金） 文部科学省福岡工事事務所より看板受領。

6.14（木） 堀内忠郎名誉教授より史料寄贈。

6.19（火） 評議会開催（平成13年度大学史料室予算決定）。

6.22（金） 企画広報室より山川健次郎総長の件につき照会。

6.25（月） 有地亨名誉教授より史料寄贈。

6.29（金） 新キャンパス計画推進室より新キャンパス模型受領。

7.1（日） 折田講師、助教授昇任。

兼任教官発令（～2003.6.30）。
熊野直樹法学研究院助教授

7.9（月） ＮＨＫ福岡放送局より史料調査のため来室。

7.10（火） ＮＨＫ福岡放送局より写真史料借用のため来室。

7.14（土） 関西大学、梅花女子大学、桃山学院大学、神戸女学院大学、西南学院大学、福岡大学より、大学史料室視察のため来室。

7.30（月） 鈴木信氏より史料寄贈。

九州大学大学史料室ニュース　第18号

Archives of Kyushu University

発行日　2001年９月30日（年２回刊）

編集
発行　九州大学大学史料室
〒812-8581 福岡市東区箱崎６－10－１
電話・FAX （092）642-2292

印刷　㈱ミドリ印刷